

ほかほかだより



2023.4.28



現代の社会にみられる公平や不公平、決めつけた見方(偏見)や差別などは、子どもたちの小さな社会の中でも見られます。

ひかり幼稚園では年間を通して、人権について考える『ほかほかタイム』を実施しています。日々の生活の中で、「これって、どうなんやろ?」と疑問に思ったことを、自分もまわりのみんなも心地よく過ごせるように、考えたり、それぞれの思いを伝えあったりしています。

人権感覚を持った子どもたちに育ててほしいと願い、機会をとらえて、年齢に応じてわかりやすく話し、共に考えていきます。

内容について『ほかほかだより』を通して発信していきますので、お子さんと対話をしてみてくださいね。

今回は、端午の節句に飾るこいのぼりの制作を機会に、日本の伝統行事について、話しました。

【子どもの日】とは、

1948年に「子どもの人格を重んじ、子どもの幸福をはかるとともに、母に感謝する日」という趣旨で定められた国民の休日です。

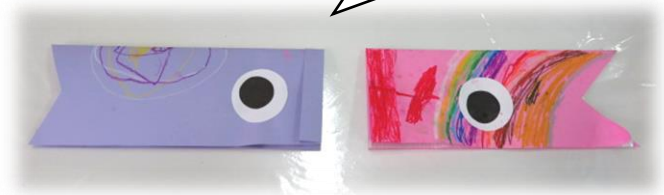
【端午の節句】には、

昔は、男の子が誕生すると武家たちが、のぼりを立てて成長を祝っていました。それが次第に、鯉が滝を登り龍になるという言い伝えから「子どもに立派になってほしい」との願いがこめられ鯉のぼりをあげるようになりました。

こどもの日の日付けについては、子どもに関する風習としては3月3日の「ひな祭り」と5月5日の「端午の節句」があり、これを合わせて5月3日とする案もありましたが、5月3日は憲法記念日とすることとなったため、季節のよい5月5日を採用することとされました。こどもの日が5月5日とされた背景にはこうした経緯があり、「決して男の子だけを対象としたのではない」と説明されています。(内閣府)

3歳児は、
こいのぼりは「子どもたちが
すくすくと育つように」とい
う思いがあることを伝えまし
た。また柏餅やちまきなどは
なぜ食べるのか?という話も
しました。

3歳児は、
こいのぼりの模様を描き
目も貼り付けました。

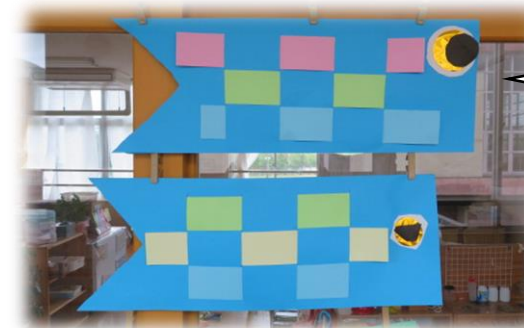


4・5歳児は、
4・5歳児は、鯉は滝を登って龍になる力強さがあり、子どもたちがすくすくと育つよう願いがこめられていることや、柏餅の葉やちまきの笹に、(5歳クラスはしょうぶ湯の葉も)意味があることを知りました。
そしてこいのぼりにも様々な飾り方・色・大きさがあることを知り「色々違った!」「違うのがおもしろい!」と新たな発見をしていました。

4歳児は、
うろこ型に色を塗り、
切って貼りました。



5歳児は、
うろこを編み込みで
つくりました。



5歳児は哲学教室で「こいのぼり」について考える予定にしています。こいのぼりの鯉の大きさや色などは“お父さんが大きい、お母さんは赤色”などと言われる事もありますが、身体の大きさ・好みの色等一人ひとりに違いがある事に気づいて考え合えるといいな、と思っています。